

生物文化多様性

高橋 凜

私は、今年の夏に、植物学者の先生にお話を聞く機会がありました。

植物学者の先生は、

「植物は世界で三十万種ほどもあるよ。」

植物には化学物質があって、薬の物質がど

の植物にも入っています。何千種類もある

けど、その中の五種類は、ミズメにしか入

っていないんだよ。」

マオ（別名・カラムシ）は、繊維がとれて

服などがつくれるよ。これで、武田信玄は

金も受けしたんだ。」

などと教えてくださったさりました。そして、最後

に、この言葉を覚えてもらいたいと言われま

した。それは、「生物文化多様性」です。私

たちが生きていくうえで、生物や植物を使っ

た文化を普及し、流布させ、子どもや孫、ひ

孫なども永遠に生物や植物と共生していく文

化のことです。

私は、この「生物文化多様性」の社会は実現したいし、実現できると思いました。なぜなら、先生から教えてもらった、植物には化学物質が入っていて、薬の物質になるものもあること、マオで服を作れること、他にも、サポニンという植物からは石けんがつけられること、クロモジからは良い香りがして、お湯の中に入れると桃色のお茶ができること、イタドリやコゴミは食べられてしかもおいしいこと

とは人間にとっても有益だからです。おそらく、これ以外にも植物を使った文化はあると思います。

そして、生物文化多様性社会になれば、さらに良いことが起こると考えます。例えば、植物だったり、自分たちに利益があったり、人間にとって良いはたりきをしたりの植物の文化が広めれば、その植物をさいばいしたりはん殖させる活動が起こります。植物は光合成を行っているので、酸素が増え、地球温暖化

などの環境問題が少しずつでも解消されてい  
くと思えます。そうすると、エス・ディー・ジェーズSDGsの十三  
番、「気候変動に具体的な対策を」や、十五  
番、「陸の豊かさを守ろう」を達成に近づけ  
たり、化学物質を利用して病気に効く薬をつ  
くることができたりもするかもしれませんが。  
また、植物は、空気清浄効果、殺<sup>キル</sup>きん効果、  
消<sup>しょう</sup>し<sup>ゅう</sup>う効果、リラックス効果もあり、植物  
が人間にあたえる良い効果は大きいです。  
また、私は植物学者の先生にお話を聞くこ  
とにより、将来の新しい選たくしができまし  
た。植物に関する文化を色いろな方法で広め  
る活動をするのです。特にやってみたいと強  
くは思わないけれど、社会に生物文化多様性  
の考えを広め、社会にこうけんすることは、  
私たちが大人になつた未来でも必要だと思  
いました。そのため、今勉強して力をつけて  
いるのかもしれない。  
生物文化多様性社会にという考えをみんな  
に広めて平和な社会にしたいです。